

ほのほのだより

～ 親子で楽しむ 絵本の世界 ～

今月紹介する本は「おばけ」の絵本。子供たちは「おばけ」は怖いけど、「おばけのお話」は好きな子が多く、「読んで～」とリクエストも多いです。

「こわ～い」と言いつつも見たい・・・そんな好奇心で読んでみると、大人も楽しい2冊を初回します。

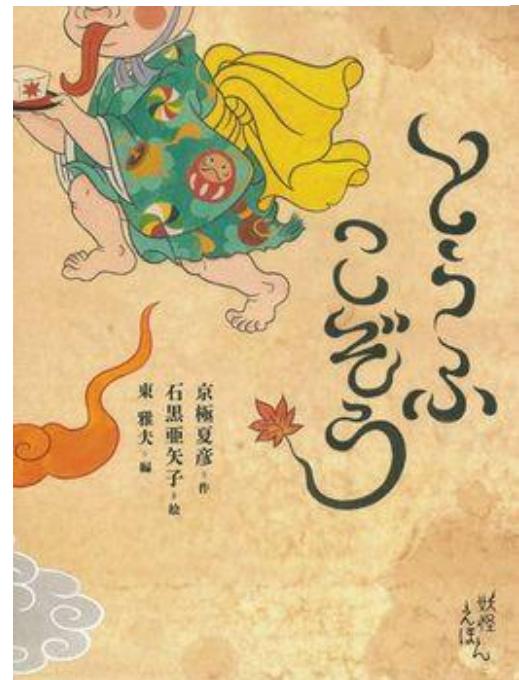
「とうふこぞう」

出版社：岩崎書店
作：京極 夏彦
絵：石黒 亜矢子
編：東 雅夫

「おばけはこわい」の言葉と気味のわる～い挿絵で始まるお話。ページをめくるとそこは不気味な挿絵がいっぱいです。でも、なぜか読むと子供たちは楽しそう。「あ、ここにおばけ！」「ここにも！」と見つけては教えてくれます。

どすん！と現れたのはこわい？かわいい？妖怪のとうふこぞう。こんな妖怪なら「また来てもいいよ」かな？

小さいクラスのお友達も大好きな1冊です。



「おばけのはなし 1」

出版社：あかね書房
作：寺村 輝夫
画：ヒサ クニヒコ

「のっぺらぼう」「ひとつめこぞう」など、昔ながらの怪談話の短編集です。

ゾクゾク・ドキドキのお話がたくさん。どれも短めで分かりやすく書かれています。読み聞かせをしながら「そういえば子供の頃、こんなお話を聞いたな～」と懐かしくなります。4・5歳児におすすめの1冊です。

